



愛媛の地域力は凄い

「愛媛県で地域づくり団体全国研修交流会を開きたい」という情報が、私が代表を務める「えひめ地域づくり研究会」に入ったのは、一昨年の春でした。結成当時から比べると少し体力が衰えたとはいいながら、それでも県内では最右翼の地域づくり団体だけに、もしやるとなると組織をあげて協力しなければ成功しないと思ひ運営委員会に図った結果、受け立つことになりました。えひめ地域政策研究センターに事務局と専従職員が配置され、とりあえず南予を中心として主会場や分科会の希望調査が行われ、十五もの地域づくり団体が名乗りを上げてくれたのです。

以来、実行委員会の設立や具体的な素案の作成、直前大会への参加など、慌ただしさの中にも少し早いと思われる程のスピードで、前年度の準備が着々と整えられて行きました。中でも分科会を受け持つ市や町では、団体と自治体の思惑が微妙にズレて多少の混乱はあったものの、全国から多くの人を迎えて交流したいとの願いが団結を生み、想像以上にいいプログラムが出来上がり全国に向けて発信することができたのです。

愛媛県は東西に長く、今回主会場となった宇和島市まではまだ高速道路も未整備で、北東の分科会場となった上島町は広島県に隣接、南西の分科会場となった愛南町は高知県に隣接と、移動にもかなりの距離と時間を要する遠隔の地でしたが、そのことが逆にプログラムの新しい魅力を生み出し、どの分科会もほぼ募集定員を満たし三百二十二人の参加者を迎えることができました。

はからずも実行委員長に就任することになった私が心を配ったのは、「愛媛らしさ」をいかにして皆さん方に体感してもらえるか、「分科会を受け持つ地域づくり団体」がどんなプログラムとスタンスで対応できるか」の二点でした。幸い前夜祭にしても全体会にしてもそれなりの力を発揮し、大いに気を吐きました。また分科会も好天という運にも恵まれ、それぞれの場合を得て交流の輪が広がって、新しい可能性が発見できたことは何よりも大きな収穫でした。

愛媛らしさ

前回の茨城大会への実行委員参加は、「愛媛らしさ」を追求する上で大きな意味を持つていました。開催時期として、日本で「一二」を争うミカン王国愛媛としては、耕して天に至る垂直農業の結晶といわれるみかんの実る十一月中旬を選びました。また蛇口をひねればジュースが飲めるというデモンストレーションも、参加者全員にみかんを配る配慮も協賛団体の配慮で実現し、みかんも豊かな自然を大いに売り込むことができました。

「伊予の寄合酒」と銘打った前夜祭は二百人を超える参加者で膨れ上がり、ポスターセッションも同一会場としたことで分科会への誘導が自然体で行われたようです。鬼城太鼓の勇壮や、愛治チンドンの微笑も、さらには特産品プレゼントも大いに盛り上げてくれました。

全体会には県知事さんも駆けつけられ、大洲市長浜町



前夜祭の締め「まちづくり締め」

の豊年踊りのユーモラスな演技が会場の雰囲気と和らげました。

続いて行われたトークセッションでは私が司会兼コメントーターを務め、宇都宮民アウンサーとフリーライターの土井中照さんが、「みんな地域づくりトーク」と題し、会場を巻き込んだ議論を交わしました。地域づくりを行う上での悩みや今後の地域づくり活動の在り方について、フロアにアンケートを求め、黒子四人が登場する奇抜なアイデアは、まさに愛媛らしい新しい試みだったようです。



トークセッションの様子

分科会での地域づくり団体の対応

全体会を終えてからの県内東西南北への移動は心配の種でしたが、分科会会場への移動をバスでの小旅行やプログラムオリエンテーションとしてとらえたため、弁当用意の移動はことのほかスムーズでした。

私が参加した分科会の第一日目は、第十五分科会の伊予市双海会場でしたが、日本一の夕日やホテルなどをテーマに、地元の手間暇かけた想像以上の準備と心からなるもてなし、それに充実したプログラムに参加した人たちは大いに感激していました。

また分科会の第二日目は、第六分科会の伊方町会場でしたが、瀬戸内海と宇和海の二つの海を見渡せる日本一細長い佐田岬半島の大自然を堪能しながら地域資源を生かすべく熱心な議論が行われていました。

八幡浜市・八幡浜市保内町・大洲市・西予市・内子町・伊方町・宇和島市・宇和島市津島町・松野町・鬼北町・愛南町・今治市・上島町・砥部町・伊予市と、南予とはいいながら、ほぼ全県下をカバーした分科会は、参加者に愛媛の自然と人情を存分に味わっていただきました。

全国大会の開催が自分たちの活動を見つめなおし、新たな出発になったことは言うまでもない大きな成果でした。分科会を開催した地域は、どちらかと言えば

少子高齢化や過疎化、第一次産業の不振などの負の部分が多い地域でしたが、地域づくり団体を取り巻く環境が厳しい故に、全国大会を契機として人と情報のネットワークを生かして、これからも知恵と力を出し合い、いい活動を行って欲しいものです。みなさんご苦労様でした。これからも頑張りましょう。



第6分科会のトークバトル

「蛇口から みかんジュースが 流れ出る
うそ〜本当?と 真剣見入る」
「何よりも 天気味方の 三日間
雨でも降れば どうしただろう」
「知恵を出し 汗を出したる 三日間
疲れたけれど それなり成果」
「知事さんも 僅か五分の あいさつに
二時間かけて 花添え出まし」
(若松進一 笑売唆呵より)



笑いの夕日寄席